

長野県民医連ピースゼミナール(2011.6.24)

「語り部」感想

聞き取りは、本当に貴重な体験でした。今の生活の中では創造もつかない経験をされ、口に出すことも勇気がいることを、語り継いでいることのすごさを感じました。70名以上集団自決した中でたった一人、生存し、語っている姿は、この事実を封印してはならないという運命を背負った方なのかなと思いました。

教科書だけでは学ぶことのできない実体験を聞くことが出来て本当に良かった。久保田さんたちが体験した事は今では信じられないこと、久保田さんがどんな思いで私たちに伝えてくれたのかを考えながら次の世代へ伝えていきたい。

集団自決の様子をあれほど生々しく、ご本人の口から聞くのは初めてだったので、胸がつぶれるような思いでした。貧困を生むのは開拓に行った庶民のせいじゃないのに…なんでこんな思いをさせられなければいけないのか…悔しい気持ちになりました。

実際、満州に渡り“死”を覚悟せざるをえなかった久保田さんのお話は、今、平穏にきている自分にとって衝撃的なものでした。久保田さんの想いを受けついでいくことの重要さを感じました。

最後におっしゃっていた「敗戦国である日本がずっと平和でいられる状況を守っていかないといけない」との言葉に重みを感じました。